

人文学部

社会・地域文化学プログラム

取得できる学位 ★学士（文学）

■ プログラムの概要

本プログラムは、社会学、文化人類学、民俗学、考古学、人文地理学、芸能論の領域の教育プログラムである。いずれの領域も、現地での調査＝フィールドワークを重視し、文字資料のみならず、様々な非文字資料から人々の営みを考えるところに特色がある。カリキュラムもフィールドワークを重視し、過去から現在まで様々な地域において形成された社会と文化の多様なあり方について多角的に学ぶことができる。

このプログラムでは、人間の営みを具体的な資料に基づいて広く深く理解する力を身に付けた学生を育成し、中学校社会科、高等学校地理歴史・公民の教員資格、博物館学芸員資格、社会調査士資格を取得し、それぞれの専門性を活かした職業で活躍できる人材、官公庁、民間企業を問わず幅広い分野で力を発揮できる人材の輩出を目指している。

■ 人材育成目標

社会・地域文化学プログラムでは、人間、社会、文化の多様性を学修できる環境を整えるとともに、次の5点に集約される基本的能力、態度、姿勢を有する人材の養成を目標に掲げている。

- ・人間、社会、文化に関わる諸問題を多角的・分析的にアプローチを試み、主体的に取り組むことができる。
- ・社会のなりたちとその歴史を深く理解し、人類が生み出した文化に敬意を持ち、その価値を後世に正確に伝えることができる。
- ・身近な課題の探究を通して、地域社会の発展に貢献できる。
- ・異文化に対する理解を深め、調和ある国際社会の形成に貢献できる。
- ・フィールドワークを通して形成した協同関係を尊重し、地域社会において実践力を発揮することができる。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) 人文科学分野の文献を読み解き、関連する知識を獲得する。
- b) 人文科学以外の分野の知識を深める。
- c) 社会学・文化人類学・民俗学・考古学・人文地理学・芸能論のそれぞれの学問分野の理論と方法論を身につける。
- d) 社会の多様性と共通性、変遷過程を理解し説明できる。
- e) 文化の多様性と共通性、変遷過程を理解し説明できる。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 野外調査に必要な技法を身につけ、実際に実施できる。
- b) 調査によって得られた資料・事象を資料化できる。
- c) 文献資料や非文字資料を適切に理解・分析できる。
- d) 博物館学芸員として、資料の収集・保存・研究、情報発信ができる。

| 3 | 汎用的能力

- a) 外国語で他者とコミュニケーションできる。
- b) 複数の視点から物事を批判的・総合的に考察できる。
- c) 情報を的確に分析し、活用することができる。
- d) データに基づいて論理的な思考をすることができる。
- e) 異なる文化・価値観をもつ「他者」と積極的にコミュニケーションできる。
- f) コミュニケートするための情報発信能力を身につける。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 人間、社会、文化に関わる諸問題に多角的・分析的にアプローチを試み、主体的に取り組むことができる。
- b) 社会のなりたちとその歴史を深く理解し、人類が生み出した文化に敬意を持ち、その価値を後世に正確に伝えることができる。
- c) 身近な課題の探究を通して、地域社会に貢献する。
- d) 異文化に対する理解を深め、調和ある国際社会の形成に貢献する。

■ プログラムの履修要件

- ・しっかりとした基礎学力と旺盛な学習意欲をもつこと。
- ・豊かな感性と強い関心をもって、学習にとりくむこと。
- ・教養科目を幅広い分野から履修すること。
- ・社会学、文化人類学、民俗学、考古学、人文地理学、芸能論のいずれかの専攻に関心をもっていること。
- ・フィールドワーク（臨地調査、野外調査等）に積極的に取り組む意欲のあること。
- ・社会・地域文化学入門A・Bを履修済みであることが望ましい。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

- ・人文学部では、授業科目開設にあたり、教養教育と専門教育の連携のうえに構築された学士課程教育のなかで、確かな専門知識と幅広い教養を涵養し、人文的実践知を育むことをめざす。
- ・各専攻の対象と方法について基本的な知識を学修する。
- ・各専攻分野に固有の方法論にもとづいた調査法・調査結果の資料化・資料の分析を実習科目等により習得する。
- ・各専攻分野の講義、演習を通じて、専門文献や調査資料を分析し、レポート・論文にまとめる能力を涵養する。